

## —病院理念— 「愛し愛される病院」

### —基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

### 【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

## —ごあいさつ—

さる7月1日より勤務させていただいている高野 進です。

この場をお借りして自己紹介をさせていただきたいと存じます。

医師になって満30年が経過した所ですが、最初の10年間は主に大学病院で、

次の20年間は半公的総合病院で働いてきました。大学病院時代は消化器内科の臨床に携わると同時に、慢性ウイルス性肝炎に関する研究を行っていました。最初はアヒルB型肝炎ウイルスに関する研究を行いましたが臨床研究のほうに興味に移り、輸血後肝炎の研究、B型C型慢性肝炎の治療や予後に関する研究、慢性肝炎(肝硬変を含む)から肝細胞がんの発生頻度の研究などを行っていました。今では輸血によって慢性肝炎に罹患するなど考えられない事ですが、1989年にC型肝炎ウイルスの検出方法が開発されるまでは輸血を受けた患者さんの約20%が肝疾患になっていました。

次の20年間は半公的総合病院で働いてきましたが、この20年間で大きく二つの時期に分けられます。前半は慢性肝疾患(主として慢性ウイルス性肝炎や肝硬変症)を中心とした消化器内科診療を中心に行い、後半は在宅医療や老人保健施設での診療に従事して来ました。消化器診療に携わるうちに在宅医療の重要性を認識し、病院に在宅医療部を新設していただき訪問診療を行ったり、病院に併設された老人保健施設の準備から開設、さらに開設後の最初の11年間の診療に携わったり、地域医療や老人医療に従事して来ました。

このたび機会を得て自宅からもほど近い杉並リハビリテーション病院に勤務させていただく事となりました。我が国も本格的な高齢社会を迎え高齢者の自立とQOLを考える時、疾病予防が重要であることは言うまでもありませんがひとたび病を得た後に回復して自立できるようになることも同じくらい重要な課題だと考えます。微力ではありますが新しい職場での医療に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



医師 高野 進

# ～ベッド柵の取り扱い～

8月3日（金）パラマウントベッド社による、医療安全対策委員会主催の院内勉強会が開催されました。当院では、ベッド柵をスイングアーム介助バー（以下、介助バー）に大幅変更することになり、安全な使用を目的に改めて取り扱いについて学ぶ機会を得ました。

介助バーは、起き上がりや立ち上がり・車椅子への移乗動作の補助を目的とされています。特に回復期のリハビリテーションでは、日常生活の自立を促進するために端座位姿勢を安定させる。車椅子に移乗する際に身体を支持する。立ち上がりから最初の一步を踏み出すまで手すりとなるなどベッドから離れる動作全般に使用できます。

しかし、利点ばかりではなく近年、医療・介護ベッド関連の事故が増えていく事例を紹介されました。起こりうる事故を知ることで危険な場所がないか、介助バーが正しく使用されているかなど、未然に防ぐための対応を考える機会となりました。

## 医療・介護ベッド安全チェック項目

- ① ボードとサイドレール等の間に、首を挟みそうな隙間はありませんか？
- ② サイドレールとサイドレールなどの間に首を挟みそうな隙間はありませんか？
- ③ サイドレール等に頭を閉じこみそうな空間はありませんか？
- ④ 利用者の状態を確認しながら、ベッドの操作を行っていますか？

看護部 係長 加藤 まゆみ

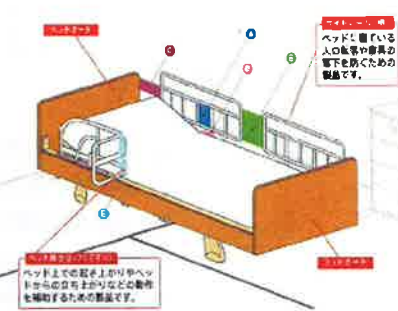
## 介護ベッドまわりの事故の現状

ここが危ない!

サイドレール関連 36

近年、介護ベッド周辺の死亡・重傷事故が増えていきます。事故の多くは危険な部分があるかどうかの確認と正しい使い方によって未然に防ぐことができます。

- ① サイドレール内のすき間
- ② サイドレールとサイドレールのすき間
- ③ サイドレールとボードのすき間
- ④ サイドレールとマットのすき間
- ⑤ ベッド用グリップの固定レバー など



# リハビリ室拡充について

当院では平成24年5月21日から6月16日までの約1カ月を費やし、1階リハビリテーション室の拡大改修工事に取り組みました。拡大前は約165㎡であった1階リハビリテーション室は実に広々とした約225㎡にリニューアルされ、院内での多目的療養スペースも含めたリハビリテーション提供環境は合計約380㎡になりました。これは平成18年のリハビリテーション室新設時の約2.3倍となり、リハビリスタッフをはじめとした全職員が新たな闘志を燃やしております！

当院のクリニカル・インディケーターにおいても、患者様1人1日当たりの提供単位数と在宅復帰率は比例関係にあり、リハビリテーション提供環境の拡大によるより手厚いリハビリテーションの提供はすなわち患者様の在宅復帰実現の最大の支援といえます。今後も医療の質と院内療養環境整備の双方から医療機能評価の向上に努めてまいります。

さて、今回の拡大改修においては、ADL訓練スペースの確保、歩行訓練距離の確保、またリハビリテーション室入口に1800mm幅の大きな出入口を増新設したことによりリスク管理の視点からも患者様にはより安全な環境でリハビリに取り組んでいただけるものになったと考え、患者様・ご家族様にもご満足いただいております。

今後についても、回復期リハビリテーション専門病院としての役割を自覚し、さらに充実したリハビリ医療の提供にてより一層「愛し愛される病院」を目指します。

総務課 係長 大山 徳郎

## 訪問リハビリ スタート!!

サービス地域

当院では入院生活から在宅生活へのソフトランディングや家族指導・確認、自主トレーニングの定着等を目的に訪問リハビリを行っています。訪問リハ専従スタッフは1名で訪問エリアは自転車で回れる範囲（おおよそ当院から20分程度）となっています。

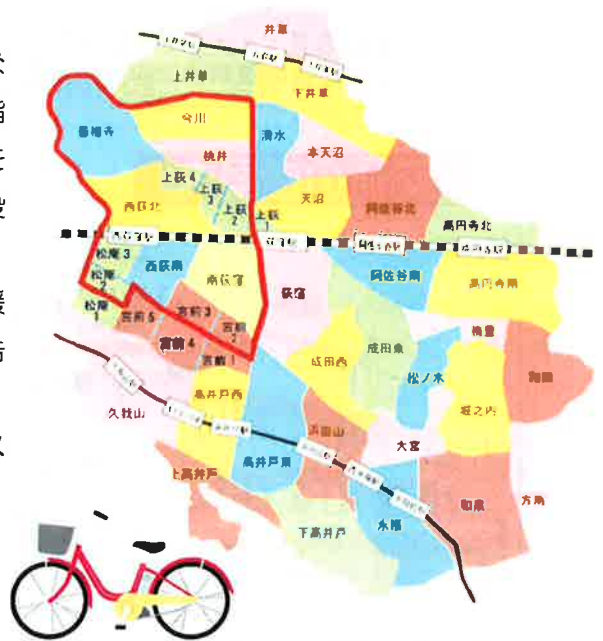
病院での環境に慣れて病棟生活が安定していたとしても自宅環境は異なるため、自宅内の環境・福祉用具の導入や設定の適合も安全で自立を目指す上ではとても重要です。また、入院中に獲得した身体機能維持・向上を図るには、他の介護保険サービス事業者との連携も必要不可欠で大切な役割になってきます。

今後は入院中のリハビリや家族指導、自主トレ指導、病棟生活設定や援助方法などが適正で十分だったかなど、スタッフが検証できるように報告していくことで病院の質の向上につなげていければと考えています。

これからも患者様・御家族と一緒に目標を立てて、達成できるようにスタッフ一同頑張っていきたいと思っております。

※詳細はお問い合わせください。

リハビリテーション科 主任 すえひろ 末廣 きょうこ 恭子



## 東京都医業健康保険組合バレーボール大会 5連覇達成!!

夏真っ盛りの8月4日（土）東京都医業健康保険組合バレーボール大会が行われました。

今回は5連覇がかかったプレッシャーの中での戦いであり、私自身のデビュー戦でもあったため、あまりの緊張感にお腹を壊してしまいました。

また、今回から男子チーム発足・初参加ということで、松原監督率いるサムライたちも非常に気合が入っていました。試合は惜しくも一回戦で負けてしまいましたが、粘り強いプレーで相手を追い込んでいました。

男子チームの思いを託された私たちは、メンバーを入れ替えながら全員が試合に出場、着々と勝利を重ねついに決勝までやってきました。結果はもちろん優勝！1セットも落とすことなく完全勝利で見事5連覇を達成しました。記録更新のために、まだまだ頑張ります！応援・サポートして下さった方々、ありがとうございました。

リハビリテーション科 きくま 千尋 ちひろ



## くーるみんと保育室

当院では職員のワーク・ライフバランスを応援しております。その一環として、今年5月に医師・看護師・リハビリセラピストをはじめとした全職員対象の保育室「くーるみんと保育室」を開設いたしました。病院前の別館の1フロアにありますので、職員も安心して働けているようです。

今後も職員が働きやすい職場づくりを目指していきたいと考えております。

※詳細は病院ホームページなどご覧ください。



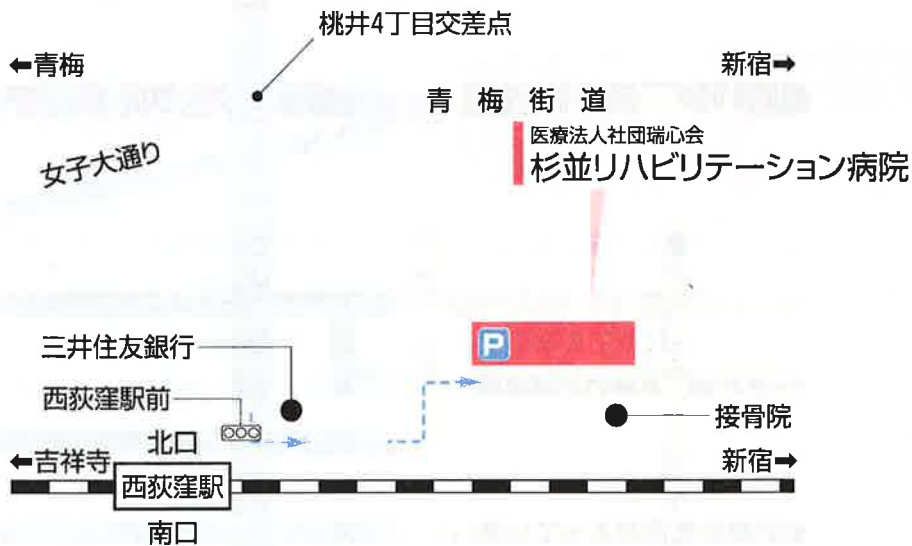
## ～ 当院の現況 ～

	平成 24 年 7 月	平成 24 年 8 月	平成 24 年 9 月
稼働率	98.2%	95.1%	93.2%
入院延べ患者	3074 人	2978 人	2825 人
在宅復帰率（直近 3 ヶ月：7～9 月）	-----		82.1%
重症患者割合（直近 6 ヶ月：4～9 月）	-----		34.0%
重症患者回復病棟改善割合（直近 6 ヶ月：4～9 月）	-----		63.7%

\* 重症患者・・・日常生活機能評価で 10 点以上の新規入院患者

\* 重症患者回復病棟改善・・・重症患者のうち 4 点以上の者が改善している割合

## 交通のご案内



■ JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分

■ 青梅街道 桃井4丁目交差点より西荻窪駅方向約1km  
 西荻窪駅前信号を左（一方通行）

## 病院概要

開院	昭和43年10月
理事長	中村 康彦
院長	門脇 親房
病床数	101床（4床室・個室）
診療科目	内科・リハビリテーション科
診療時間	毎週 月・火・水・木・金 9:00～12:30
発行責任者	門脇 親房
発行	杉並リハビリテーション病院 広報委員会

## 医療法人社団 瑞心会 杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5  
 TEL.03-3396-3181 (代) FAX.03-3396-3186 (代)

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>